



2012 J.League Division2

第12節 水戸ホーリーホック 戦

5/3 (木) 19:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

5/号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : 水戸ホーリーホック 2011 J2 1勝9分18敗 勝ち点42第1位

関東リーグの強豪であった『プリマハムFC土浦』は1996年の地域リーグ決勝大会で優勝し、JFL昇格決定。全国リーグ参戦にあわせて水戸市で活動するクラブとの吸収合併という形でホーム移転を果たし、『水戸ホーリーホック』となる。第1回・新JFLは3位であったが、優勝した『横浜FC』がJFL“準加盟”状態であったため、“正会員の中で上位2チーム内”として翌年よりJ2参加となる。昇格後は中位~下位をなかなか抜け出せずにいる。最高成績は2003シーズンのJ2・7位。岐阜は水戸の相性がよく、通算成績も7勝2分1敗と大きく勝ち越している。(吉田鑄造)

アウェイ富山の地で非常に悔しい敗戦をしたFC岐阜。GW4連戦の前半2戦を連敗してしまい、これで再び最下位に転落してしまった。21位との勝ち点も2差に開いてしまい、これ以上勝ち点で離される訳にはいかない。今節はどうしても勝利が欲しい。

さて、今節の対戦相手である水戸ホーリーホックは、何故か非常に相性のいい相手だ。これまでの対戦成績は7勝2分1敗と一番勝率が高く、昨年もFC岐阜の6勝のうち、2勝を水戸から挙げている。しかし、現在の水戸は前々節では無敗だった湘南を破り、前節も徳島に勝利して3連勝。順位も4位と勢いに乗っている強敵だ。

FC岐阜の最大の課題は、やはり(残念ながら)なんといっても決定力不足だろう。良い形には持っていけているが、フィニッシュでの精度が悪く、得点が奪えていない。11試合で計5得点は現在J2最少得点。ここ3試合でも1点しか獲れていない。一方の水戸は11試合で6失点とJ2最少失点を誇っている。中でもGK #1本間幸司は守護神として君臨し、水戸だけでJ2通算出場400試合を達成している“Mr. ホーリーホック”だ。この大きな壁を、岐阜の誰が破るのか。攻撃陣の奮起に期待したい。

GW4連戦の3戦目ということで、どちらのチームも体力的には相当厳しいコンディションになっているだろう。どちらが、より得点に、そして勝利に食欲に戦うことができるか、これが勝利の鍵となるだろう。(ささたく)

Looking back 2011

第9節 4/30 @長良川

2-1 得点者: 佐藤・嶋田

第2節 8/21 @水戸・Ksスタ

2-1 得点者: 押谷、野垣内

シーズン初勝利。序盤から左サイドでの攻防で『勝負づけ』が済んでしまい、開始2分の先制ゴール、後半の追加点、相手が1人退場と理想の展開。しかし、1点を返されてからは守備がバタバタになり、最後は絶体絶命のピンチを相手のシュートミスで救われて試合終了。なんとも締めりのない終わりに、シーズンの将来に不安を憶えてしまった。

小雨の中の試合。7試合ぶりの得点で先制するも追いつかれ、流れ的にはそのまま逆転されるのが昨今だったが、両軍バタバタの試合は、後半アディショナルタイムのCKから野垣内のヘッドで決着。7試合ぶりの勝利。水戸と相性の良さが際立った試合。(吉田鑄造)

F C岐阜サポによるゲリラ的U s t 配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「ユーチューブ」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお楽しみください。

<http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu>

次回は5/12(土) 21:00開始の予定です。

2012J2 順位表 第11節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から見て)

1	湘南	25p	+9	24	15	A●
2	山形	25p	+6	16	10	
3	甲府	21p	+7	16	9	
4	水戸	21p	+6	12	6	
5	大分	20p	+6	16	10	H●
6	東京V	19p	+6	17	11	
7	京都	19p	+4	15	11	H●
8	岡山	19p	+2	10	8	
9	愛媛	18p	+8	17	9	
10	千葉	18p	+6	13	7	
11	北九州	16p	+1	11	10	H○
12	福岡	15p	+3	19	16	
13	栃木	15p	+1	12	11	A△
14	松本	14p	-4	7	11	
15	草津	12p	-5	9	14	H△
16	町田	10p	-5	11	16	
17	熊本	10p	-5	9	14	A●
18	富山	9p	-4	12	16	A●
19	横浜FC	9p	-7	11	18	H●
20	徳島	8p	-7	7	17	A●
21	鳥取	8p	-13	8	21	H△
22	岐阜	6p	-12	5	17	==



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・

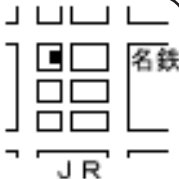
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日 (今日は営業しています)



投稿募集!

gidaidoh@hotmail.co.jp

次回 HomeGame

第14節 松本山雅戦

5/13(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

【第10節】岐阜 0-2横浜 FC

●酷かった。勝ちたい、勝とうという気持ちが本当にあるのか疑いたくなるような内容だった。平日夜の開催とはいえ3500人ほども入った観衆（多くはカズ見たさだったかも知れないが）。そして数少ない地上波での中継のある日、さらに同日に株主総会が開催されたことなどこの試合の持つ意味は大きかったと思うのだが…。

（岐阜の誇り）

●なんで、こーゆー大事な試合でいつもウチは勝てないかなあ…（溜息）。これまでチーム作りに悩んでいたが、ホームで北九州に勝利し、アウェイで栃木に引き分け、さあこれから…という大事な試合だったのに。比較的下位グループとの対戦となるGW4連戦の初戦で、ここで勝って勢いをつければ、一気に順位アップのチャンスとなる大事な試合だったのに。クラブがJから「予算管理団体」の指定を受けた後、これが初のホーム戦、しかも試合の前には株主総会が開催された（しかもおそらく紛糾した）後で、スポンサー・株主が「今年のチームはどうなのか」と注目していた大事な試合だったのに。“カズ効果”があったとしても、平日金曜ナイターで今季最多入場者数の3540人の観客が集まった大事な試合だったのに。

こういったことを、選手が知らないとは思えない。もちろん不必要なプレッシャーにしてはしくは無いが、それにしたって動きは良くなかった（溜息）。相手の横浜FCは、典型的な「縦ポン」サッカーをしてきた。「戦術は縦ポン、あとは田原と大久保で何とかする！（苦笑）」と言っても良いだろう。しかし、そのサッカーに完全にやられてしまった。2発とも、マークを外した（外された）田原に決められてしまった。どうも今年のウチの守備は、パスサッカーには強い反面、縦に速いサッカーには弱いような気がする。攻撃も単調だった。シュート数は10本となっているけど、後半11分の洗一のヘッドと後半44分のハンジェのミドルぐらしか粹に飛んでいないような気が…。もっとシュート精度を上げて、そしてもっと積極的にゴールに向かって仕掛けていかないと、得点は奪えないのじゃないだろうか。

それにしても田原はイヤな選手だ。湘南時代にも、何度も彼にやられたし、そして今夜は、今季初&初バースデーゴールしかもチームの連勝まで決められてしまったんだから。いわゆる「天敵」なのか…（溜息）。試合終盤には、勝利を確信した横浜FCには、（そりゃお客さんには嬉しいイベントだと思うんだけど）カズが出てくるという“顔見世興行”までやられてしまい、悔しさは更に増した。このリベンジは、リーグ最終戦のアウェイで晴らすしかない！それまで、一歩ずつ積み上げたチーム作りをするしかない！（ささたく）

●ホーム北九州戦で念願の初勝利、アウェイ栃木戦では追いつかれはしたものの先制して引き分けと少しずつ調子を上向かせた状態で臨んだ横浜FC戦だったが、掴みかけた手ごたえをこの試合で確認することはできなかった。攻撃ではバイタルエリアから先のプレーがどうにも精度を欠いている。一方守備では、うーん……なんとも表現に苦しむが、危機察知能力に欠けているというかハンジェのいないところを突かれると途端に不安定さを露呈するというか。横浜の田原に2発決められておしまい。どうしようもないといった感じの敗戦だった。前2戦とはまるで別のチーム。好調を維持できないからこそこの成績なのだから、しっかり問題点を洗い出して同じ過ちを繰り返さないようにするしかない。（ST57）

●現地とTV観戦ではこんなに印象が変わるのかなあ〜と思うくらい、録画を見てビックリした次第。なんか、フツウの出来に見えた。現地では今季最悪、イイ流れは二試合しか続かないのか？と落胆したんだが（苦笑）。もちろん、一試合を完璧にゲームメイクすることも、攻め続けることも至極困難なことはわかっているが、よほどのことがなければ試合の中で、波とかが上がり下がりがあって、イイ場面もアブナイ場面もあるのがサッカーだと思っている。結果を出せたここ二戦でもそうだった。だが、この試合は悪いところしか出ていない。まったく見どころがない感じ。あえて探せば、2点差をつけられてからのハンジェのシュート、そして終了直前の服部のシュートぐらいいかな？あ、村上のクロスはイイ出来に見えた。選手交替も効果的ではなかったし、逆にどんな意味があるのかわからない起用のように感じる場面も。もちろん、監督にしてみれば狙いがある起用だろうが、選手がそれに答えられなかったということだろう。そういう意味では、途中交替で出場しながら味方に退場者が出たワケでもないのに交替させられた7番はいろいろ考えてほしい。確かに、カラダも重かったのか、いつものパフォーマンスが発揮できなかったのは残念だ。

そして、何よりも今日の相手は順位争いの結果を出したかった横浜。ドコに勝っても勝ち点3だが直接対決での勝敗が持つ重みはわかっていたはず。そして、月末平日にもかかわらず集まった人々を「また来よう」という気持ちにさせるゲームを切にお願いしたい！勝ち負けに関係なく、FC岐阜の試合が見たいと思うような人々はまだまだ少ないのだから。（ぐん、）

【ユース】クラブユース選手権を戦う

●我々がFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は4月29日にクラブユース選手権の一次予選の試合である愛知FC戦を戦いました。場所は名古屋経済大学グランド。この日は天候に恵まれた事も有り、いつも観戦に来ている父兄さん以外にも運営ボランティアのグリーンズや蜷のメンバーも応援に駆けつけていて、愛知FC他の関係者も含めると50名以上の人が観戦していました。相手の愛知FCは昨年の同大会一次予選を2位通過している強豪チーム（FC岐阜ユースは3位通過）。試合は開始当初から一進一退の好ゲームとなりました。前半は0対0で折り返し、後半も同様な展開。ただ少し足が止まり始めたかな？というFC岐阜ユースの選手に対して、愛知FCの選手はチャンス時にはシュートでフィニッシュをする姿が目立つようになり、ついには後半28分に愛知FCが先制点を決め、均衡が破られました。その後のFC岐阜ユースの怒涛の攻撃は選手の気持ちが入っていた見事な物でしたが、結局相手ゴールをこじ開ける事が出来ずにタイムアップ。FC岐阜ユース0対1愛知FCの惜敗でした。クラブユース選手権の残り試合は5月13日のHonda FC戦と5月20日のFC ERDE戦の2試合となります。場所はいずれも浜松市北区のホンダ細江グランド。ちょっと遠いですが、良ければ応援に足を運んで下さい。又、岐阜県のG2リーグの方は5月6日に岐阜北高校グランドにて岐阜北高校との対戦が有りますので、こちらもどうぞ。FORZA! FC岐阜ユース!!（シュナ）

【第1節】富山1-0岐阜

●攻撃陣は仕事しろよ!!と怒鳴った内容でした。決定機を外しまくって、普段勝つための練習をしているように思えません。負けた後、「次は勝とう」だけで済ませてミーティングとか何もやっていないのかと疑っています。
(ブラウ@翠魂)

●勝てる試合だった。勝たなければならない試合だった。21位の岐阜と20位の富山の一戦。しかも、序盤から圧倒的にボール保有率は岐阜の方が上だった。(僕の感覚では)ボールも良く奪えていたし、ハーフコートマッチと言っても良いぐらいにボールを回していた。決定機も(それほど多くはなかったが)何度かあった。シュートも、富山が4本に対して岐阜は10本。しかし、それでも得点が奪えない。あと少しのパスやシュートの精度、あと少しの動き出しの早さ、あと少しの積極性…そういったものが足りなかったように思う。でも、富山に危険な場面は殆ど作らせず、注意しなくてはいけないのはセットプレーのみ…、そのセットプレー一発にやられてしまった。セットプレー直前、富山が西川→黒部に選手交代して少し時間が途切れたので、なんだか嫌な予感がしていた。京都戦でも、原一樹が投入された直後に失点したことを何となく思い出していた。でも、それが本当になってしまうとは。富山FW#10若口をゴール前でマークを外して完全にフリーにしてスペースも与えてしまい、そこにボールが行けば、そりゃ決められてしまうよなあ…(溜息)。それまでずっと優位に進めていたので、一部の選手は気が緩んでいたとしか言いようがない。ボールウォッチャーになっている選手もいたし、猛省して貰わなくてはならない。

「無理をせずにボールを回して得点の機会を狙う」のは、悪いことではない。特に、失点に注意しなくてはならない立ち上がりの時はそうだ。しかし、これも全く相手を崩そうとしなくなったり、強引に突破・シュートに行った方が、良い場面でもボールを戻しているようでは、相手DF陣はゴール前に人数を集めて鍵をかけてしまえばいいのだから、これは楽な守り方だろう。

それにしても、前節の横浜戦では田原にバースデーゴールを献上し、当節は若口にJ2通算10試合出場記念ゴール&今季ホーム初勝利をプレゼントするとは、どれだけウチは優しいの…(溜息)。

本当に悔しい、そしてダメージの残る敗戦そして連敗となってしまうが、過密日程のGW4連戦は待つてはくれない。選手には体力的にも精神的にも疲労が溜まっていると思うけれど、フレッシュな選手を活用して、この苦しいヤマ場を乗り切ってほしい。そして、今度こそホーム長良川で万歳四唱を!!(ささたく)

●これを書いているのは試合の翌日。それでも、どうしても腑に落ちない。もちろん、「負けに不思議の負けなし」で失点して得点できなかったから負けたワケで、数少ないセット・プレーのゴール前で、敵FWをフリーにしてたら、そりゃあこういう結果もやむなし、なんだが。だけど、あえて言ってみる。「なんで負けたかわからない」。前半始まってしばらくしたら、そこから先はずっとウチのターン。富山は何にもできなかった。ゴール裏同様まさにやりたい放題で、その様子は某アニメの、あの名セリフのようにまさに“圧倒的”な状況だった。ただ、前半の洗一のヘッドがバーに嫌われ、後半に廣田がトラップする余裕がありそうなのに狙いにいったダイレクト・ボレーが枠をはずした辺りから「決める所をキメとかなないと…」と思ったのも、また事実。それでも、先制されたとはいえ、まだ時間は十分あった。ここから逆転するのが燃えるシチュエーションだろ!そう信じて疑わなかった。が、残念ながら結果はそうならなかった。

コレがサッカー、コレもサッカーというしかない。どの選手も懸命に走っていたし、冷静にチャンスを構築しようとしてた。ことに両SBは絶好のクロスを何本も供給できていたし、明弘に至ってはロングレンジのサイドチェンジも効

果的に決めていて、前節はなんだったんだろう?いよいよ確かか?と思ったくらいだ。

若干試合に入っていなかったのは、交替出場の地主園くらい…、そんなふうに見えていたのだけれど。現地での印象とTVとは違うものだし、実際まだ録画を見ていないので、あくまでボク自身の感想。そして、現地にいた仲間とも意見が異にしていることも承知はしている。

選手達は試合後の挨拶に駆け足で来るのもツライだろう?と思えるような、それくらい力を出し切ったように見えた。そのガンバリに報いるためにも勝たせてあげたかった。そのために、ゴール裏には開幕戦と同様ビッグフラッグも掲出し、間違いなくホームの雰囲気を作り出せていたと思う。もちろん、これも主観。だが、結果は無得点の敗戦。そして、再び最下位。どうしても、結果が欲しい中でのこの事実は厳しい。

「このサッカー、あの内容で負けた。じゃあ、いったいどうやったら勝てるんだ?」挨拶が終わって帰っていく選手の背中を見ながら、そういう思いも湧いてきた。だがしかし、じゃあ今日のような戦い方に不満があるかと言われれば、否と即座に答えたい。このサッカーを続けていくしかない。続けていけばいい。「このサッカーをやり抜けば結果は付いてくる。」そう思って、次もスタジアムに行くより他はない。問題があるとすれば、次からの相手は富山じゃない、ってことだな(苦笑)。(ぐん、)



コラム『編集人から一言』 「街に“サッカー”がある、という幸福」

●『コバルトレー女川』というサッカーチームをご存知でしょうか。東北社会人リーグ2部南地区所属。昨年3月の東日本大震災で発生した大津波に街ごと呑みこまれてしまった、宮城県女川町のサッカークラブです。当時、民放の報道番組で特集されたので名前は覚えのある方もいらっしゃるかもしれません。

地元のかまぼこ製造会社で働きながらサッカーをしていた選手達は、津波ですべてを失った街で、倉庫に残っていたかまぼこを避難所に配り、会社のトラックで水も配り、復興に向けて全力で活動しました。「1年後に絶対復活する」の宣言で、昨年はサッカーチームはリーグ不参戦。そして1年後、コバルトレーは宣言通りに東北2部南に参戦。「1年後に必ずこの街に帰ってサッカーをする」と、外のクラブで腕(脚?)を磨いていた選手達も戻ってきました。昨年までFC岐阜セカンドに所属していた横山雅哲選手が移籍したという縁もあり、先週の日曜に女川まで行ってきました。

●女川の街は、とにかく、本当に、何もなくなってしまっていました。港をすぐ見下ろす、標高16mの高台にあるという町立病院、その1階の天井あたりまで津波は上がってきたそうです。そのさらに奥にある運動公園で東北2部南、コバルトレー女川×マリソル松島の試合は行われました。結果は3-1でコバルトレーの勝利。横山選手は左センターバックでスタメンフル出場。横山選手の不運なハンドによるPK(苦笑)で先制されたのですが、その後は守備の破綻もなく無失点で抑えきりました。試合前と後で横山選手とは少しだけ話が出来たのですが、「岐阜から来た」と伝えるととても喜んでくれて、ばくも嬉しかったです。

●女川の復興には長い時間が必要でしょう。運動公園では仮設住宅の建設が進んでおり、試合が行われた陸上競技場も近々壊されると聴きました。それでも「この街にサッカーが戻ってきたという幸せ」を深く深く感じた、そんな女川訪問でした。(吉田鎬造)

